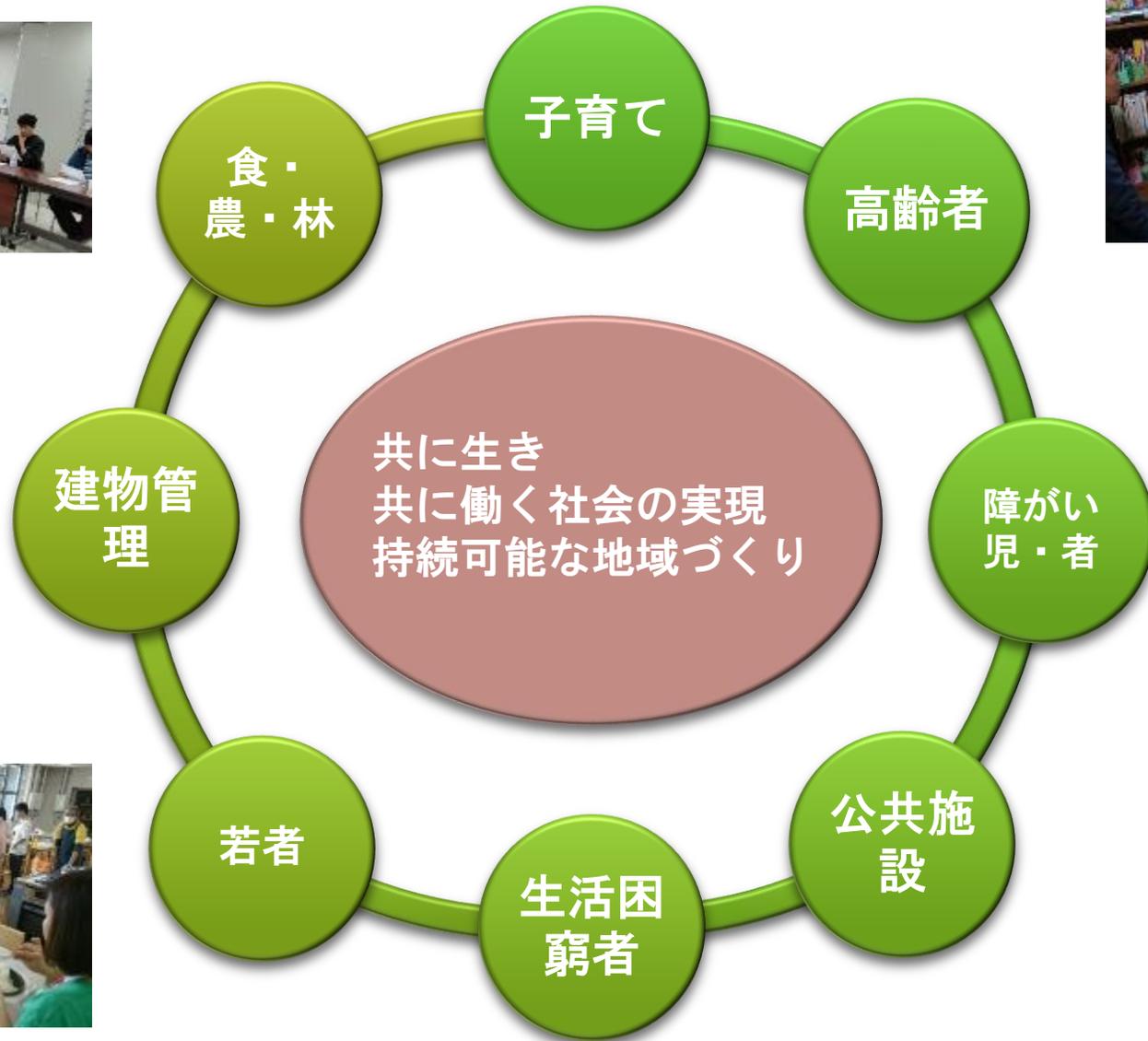


A pile of colorful LEGO bricks in various shapes and sizes, including blue, yellow, orange, green, and pink, scattered on a light-colored wooden surface. The bricks are arranged in a way that suggests they are being used for building or construction.

協同労働の法制化と現場づくり

九州・沖縄事業本部の実践を通して



【佐賀県】1事業所

- ・放課後等デイサービス
- ・ミニショップ（廃校活用事業）

【長崎県】3事業所

- ・通所介護
- ・放課後等デイサービス
- ・就労継続支援A型（就労移行支援）
- ・食堂
- ・子育て支援センター
- ・生活困窮世帯の学習支援事業...4自治体
- ・病院清掃...1ヶ所
- ・施設清掃...2ヶ所
- ・クリニック清掃...3ヶ所
- ・売店
- ・建物管理 他

【熊本県】1事業所

- ・農業（畑）
- ・子ども食堂、学習支援（社会連帯）

【鹿児島県】7事業所（うち奄美大島...2事業所）

- ・認可外保育&託児...4ヶ所
- ・小規模保育...2ヶ所
- ・放課後等デイサービス（児童発達支援含む）...7ヶ所
- ・放課後児童クラブ...5ヶ所
- ・日中一時支援...3ヶ所
- ・相談支援事業
- ・講座事業
- ・就労継続支援B型...4ヶ所
- ・生活介護（多機能型）
- ・有償運送
- ・地域若者サポートステーション...3拠点
- ・訪問介護...3ヶ所
- ・生活困窮者就労準備支援事業
- ・生活困窮者等学習支援事業...3ヶ所
- ・病院清掃...3ヶ所
- ・病院当直業務...3ヶ所
- ・店舗清掃...3ヶ所
- ・受付業務
- ・物流現場

【福岡県】17事業所

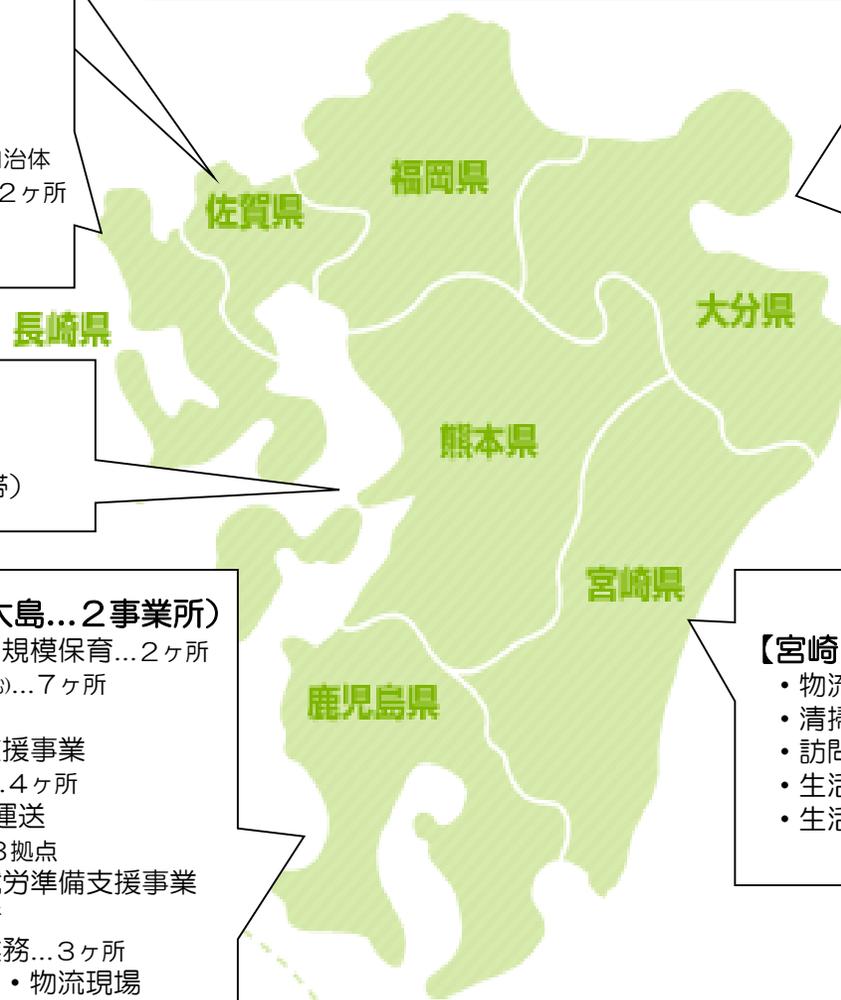
- ・訪問介護...3ヶ所
- ・通所介護...2ヶ所
- ・生活介護（共生型）
- ・子どもプラザ...5ヶ所
- ・放課後等の遊び場づくり事業...22ヶ所
- ・放課後児童クラブ
- ・児童センター...3ヶ所
- ・放課後子ども総合プラン（通称：ランドセルクラブ）
- ・放課後等デイサービス...11ヶ所
- ・就労継続支援B型 ※年内開始予定
- ・市民活動センター
- ・子ども家庭支援センター
- ・子育て見守り訪問員派遣事業
- ・深夜電話相談事業
- ・親子関係再構築事業
- ・生活困窮者等学習支援事業（福岡県広域町村部）
- ・人材バンク
- ・産前産後サポート事業
- ・病院清掃...3ヶ所
- ・施設清掃...6ヶ所
- ・クリニック清掃...3ヶ所
- ・病院の送迎業務
- ・食器洗浄
- ・緑化事業
- ・食品工場
- ・食事業

【大分県】4事業所

- ・居宅介護支援
- ・訪問介護...2ヶ所
- ・通所介護...2ヶ所
- ・有料老人ホーム
- ・放課後等デイサービス...2ヶ所
- ・病院清掃（施設清掃）他
- ・売店業務
- ・看護サポート
- ・講座事業
- ・生活困窮者就労準備支援事業
（大分県広域）
- ・放課後児童クラブ...2ヶ所
- ・就労継続支援B型...1ヶ所

【宮崎県】2事業所

- ・物流〈コープみやざき〉
- ・清掃、売店〈生協病院〉
- ・訪問介護
- ・生活困窮者就労準備支援事業
- ・生活保護者等子どもの居場所づくり事業



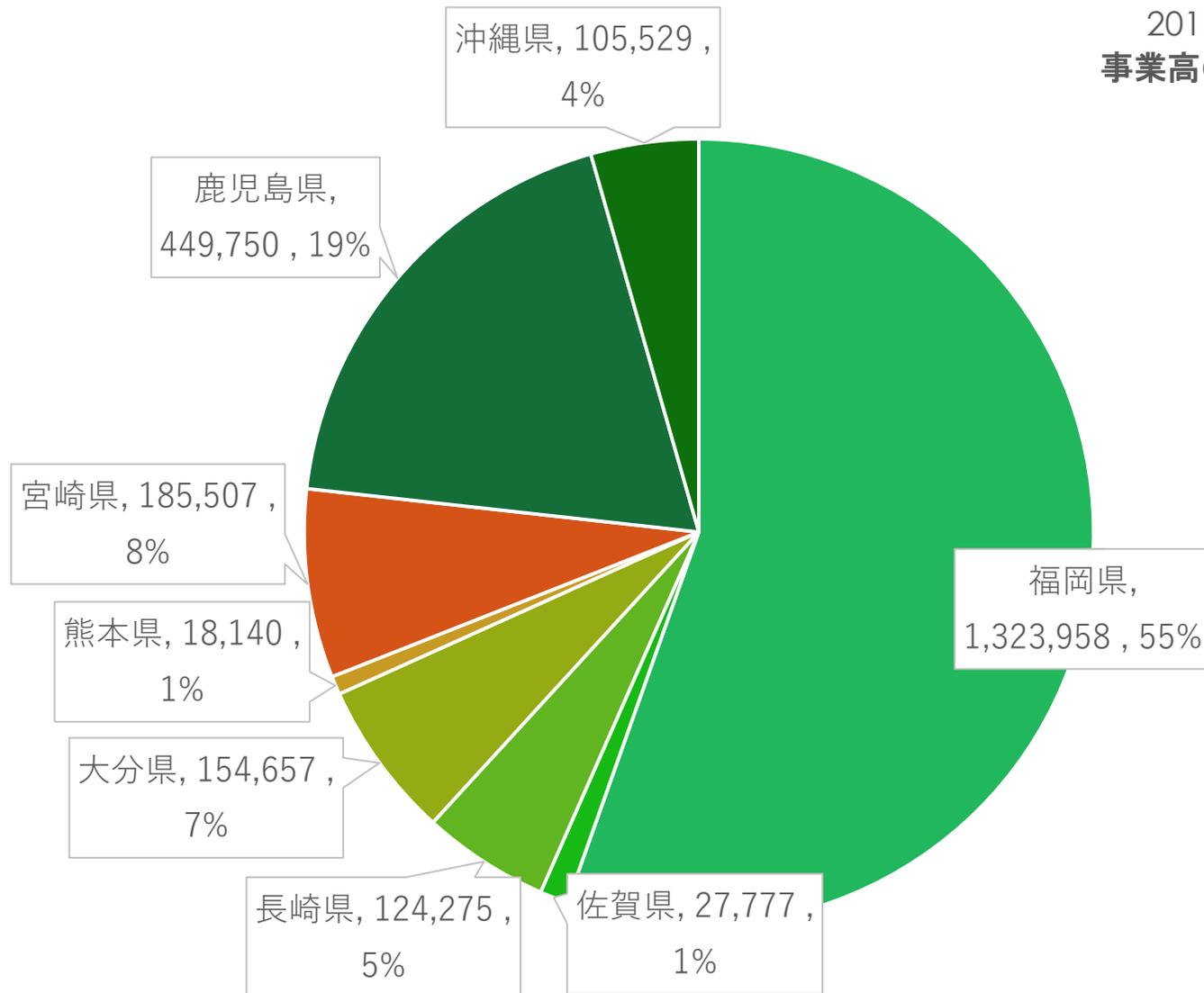
沖縄県内のワーカーズコープ



【関連団体】
生活協同組合・沖縄高齢者協同組合（高齢者や地域の配食事業を展開）

ワーカーズコープ九州沖縄事業本部の事業高

2017年度決算
事業高の単位：千円

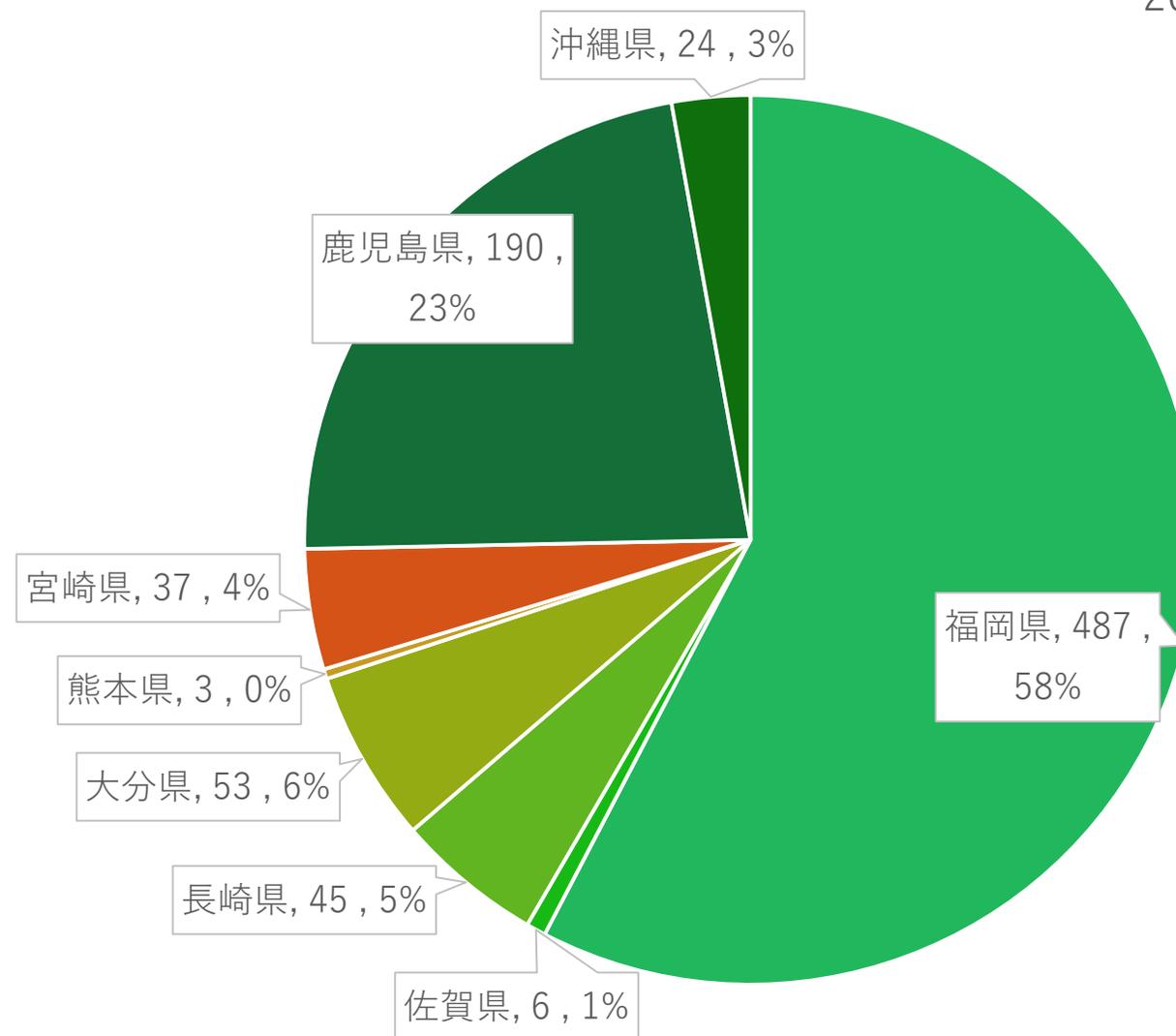


業種別構成比	
ビルメン	20%
物流	35%
介護保険関連	12%
子ども関連	20%

特徴的なことはビルメン
物流の比率が大きい

ワーカーズコープ九州沖縄事業本部の組合員数

2019年3月末時点



自己紹介

- 2008年ワーカーズコープ大野城事業所入団
- 地元のNPO法人から学童保育の委託先が変わって
- どうして5万円出資するの？
- 委託先変更により多くの退職者が出たため、現場は混乱
- 立ち上げに尽力した初代所長の奮闘
- 2年目所長を引き受ける
- ままにならない事業所運営

-
- 協同労働より現場運営・・・所長の言っていることもわかるけど
 - 都合のいいところで協同労働
 - 一人一票の議決権・発言の自由のはき違え
 - 7つの原則を中心に・・・協同労働宣言
 - オセロがひっくり返るように
 - 「子どものために」一致していく仲間たち
 - でも終わりは突然に

実践例－大野城事業所

【児童（放課後等）デイサービスの立ち上げ】

学童保育の運営から、障がいを抱える子どもたちが安心して過ごす場所がないことに気づき、地域と懇談会を重ねる中で、学童だけでなく、様々なところで障がい児の居場所がない現状を目の当たりにしました。その中で、組合員・障がい児をもつ保護者・地域の方々と知恵やお金（出資金など）を出し合い、2011年3月に大野城市で初めてとなる「児童デイサービスほっと」を立ち上げる。

運営開始から8年、子どもたちが自分らしくいられる場所として現在でも運営を続けており、放課後等デイを運営する中で、障がいの有無や、子どもと高齢者の垣根を超えた「みんなの居場所ほっとのたね」を2017年10月に立ち上げる。常に事業を行う中で見えてくる課題を仕事おこしで解決している。



実践例一 国分ほのぼの

【介護から学童保育まで一地域に広がる協同の輪】

ヘルパー2級（現、介護職員初任者研修）講座の修了生が立ち上げた事業所。地域の困りごとに対して、できることはすべてやろうと「赤ちゃんからお年寄りまでへの生活支援」をテーマに、訪問介護と託児からスタート。

「うちの子が待機児童になるから、仕事を辞めないといけない」という相談をきっかけに放課後児童クラブ（学童保育）へ活動を広げる。

また、活動をする中でひきこもり・孤立の問題にも直面し、「私たちがすべきことはまだまだたくさんある。」ということで若者支援事業・放課後等デイ・障がい者就労継続支援などを立ち上げる。

地域の中で自給・循環するコミュニティを目指して、自然農法での農業活動から子ども食堂を展開。森林の保全に関する取り組みも始めようとしている。

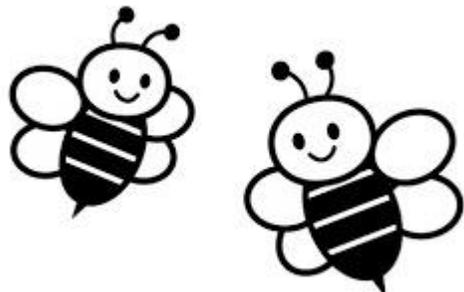


持続可能な自給圏をイメージさせる事業所 国分ほのぼのが、一貫してやってきたこと・・・「提起全面実践」

地域の困りごとを仕事に

事業の複合化総合化・・・訪問、学童、放課後等デイサービス、基金訓練、サポステ、就労継続支援b、体にいいものの直売所

社会連帯を活発に・・・米作り、野菜作り（自然栽培農法）、養鶏
子ども食堂、フードバンク、制服バンク
国分まちづくり協議会立ち上げ



蜂も飼ってました



萬田黒鳥 卵を直売所で販売

実践例一福岡市「見守り訪問員派遣事業」

経緯 福岡市では2009年6名が虐待死、2010年大阪市での幼児
2名の虐待・放置死から、「泣き声通告」が増加

目的 ①泣き声通告への対応

②48時間以内の安全確認体制の充実

③保護者の育児不安が軽減されることを願って「あなたの
子育てを気にかけてとうとよ」のメッセージを届ける

2012年事業開始 実践の積み重ねが大阪府・東京江戸川区・北九州市へつながる

実践例一 鹿児島島谷山事業所

【困難を抱える若者の働く場づくりを】

鹿児島県内の病院やコープ店舗の清掃業務を行う。

その中で、児童養護施設やニート・ひきこもり、生活困窮に至った若者を積極的に受け入れ、困難を抱えていても、できること仕事からはじめる（業務を分解する）ことで、人に役立つ仕事の達成感、仲間がいることで支えあう（協同）ことでの安心感を醸成している。ここで働く若者の中には、この事業所で力を発揮して責任者を務めるものも出てきている。

どんな困難があっても、ともに働くことを通じて、人間的な成長が生まれ、人が育つ職場になっている。



協同労働の法制化とは

「私たちの協同労働」から「市民が協同労働を使って地域づくりへ」

- 「労働者協同組合法」
- 出資、意見反映、従事の3つの基本原理
- 目的は、多様な就労の機会を創出し、持続可能で活力ある地域社会の実現を目指す
- 私たちの働き方が公的なものになる
- 「社会がどう変わっていくか楽しみです」（田村憲久衆議院議員）

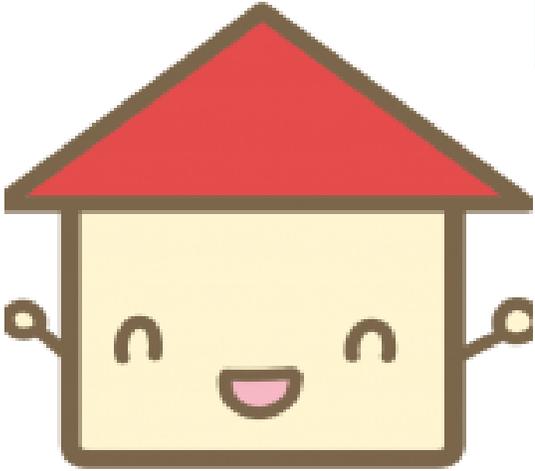
支え合い、命と暮らしを守る共同体・・・みんなのおうちを考える

- いのちを育む地域づくりへ
- 格差拡大、孤立・分断、そして気候危機、ウィルス感染の危機
- 事業所・現場だけの力では解決できないよー
- 市民との合流の場
- ワーカーズコープが培ってきた自力×当事者・「何かしたい」と願う方々
- それを後押しする労働者協同組合法

事業所・
現場

もっと高まりたい
こんな地域だったら
困ったをどうにかしたい
〇〇のことが心配

手を貸してほしい
一緒にやろう
あなたが必要



ワーカーズコープ×市民=新しい公共

小農・森林ワーカーズの取り組み

- 3.11後のFEC自給圏の提起と2014年九州・沖縄協同集会
- 前奥本部長が「小農は地域を救う」と直感・みんなで取り組もう
- 作って食べよう・・将来的には九州・沖縄の自給自足を目指す
- 実践と学習・・山下惣一さん、宇根豊さん、黒木顧問
- 食の安全、食糧危機・・グローバル経済の歪み
- 国連「小農宣言」(2018年11月)

小農とは

- 大規模農業に象徴される「産業農業」、暮らしとしての「生活農業」
- 生活農業は兼業によって支えられ、家族経営による小さな農業
- 萬田正治先生「小農とは」
これまでの既存の小農のみに限定せず、農的暮らし、田舎暮らし、
菜園家族、定年帰農、市民・体験農園などで取り組む都市生活者も含めた階層も新しい小農と定義
- 九州・沖縄の小農は小さい農業

協同労働と小農の親和性

いまの世の中の大きな問題のひとつに、「人まかせ」ということがあると思います。食料、医療に限らず、政治や教育の分野でもそうですよね。

ほんとうは人まかせにしてはいけない大切なことなのに、社会全体のあらゆるところで人任せにしていることが見受けられます。それが、社会のさまざまな問題をひきおこしている要因であることは間違いありません。

なかでも食べることに関しては、いちばん人まかせにはしてはいけないと考えています。私は、どのようなことでも自分にできるのだろうかとはたしかめたい質なので、まずは作物の自給自足を実践してみました。（中略）

いま、オーガニックの食材を買おうと思ったら、ものすごくお金がかかります。お金がたくさんあって買える人はいいかもしれませんが、誰でも買えるわけではない。だけど、よく考えてみると、お金のある人しか体にいい食べものをかえないというのは、いい社会とは言えないことですよね。（中略）

たとえば、米づくりやみそづくりなど、みんなでやるほうが効率がよく、楽しくできます。まわりの人たちと連携し、助けあう、支えあう関係性が自給自足には欠かせない要素なのです。

（「病気になるしない食と暮らし」七合診療所長 本間真二郎）

いま、働く人たちが自身がまるで「商品」のように市場の評価を受ける社会。常に競争にさらされる中、「使える」「役にたつ」ものばかりを生み出し続けなければいけない。強欲資本主義はどこまで言っても働く人、弱いものから奪い取っていきます。

国民一人一人は働くとは誰かに雇われるもので、食べるものは誰かがつくるのが当たり前になっているのではないのでしょうか。本当は不自由を強いられているのではないかと思います。

「協同労働運動」「小農運動」は社会に光を当て、みんなで支えあい・助け合い・協同の力で自由（働くこと、食べること）を手に入れることになると確信しています。

（協同の発見「『“小農・森林ワーカーズ”全国ネットワーク』発足に向けて」 渡口副本部長）

奄美がじゅまる（保育）

小農というより笑農です。
新型コロナ対策より日焼け対策が大事。



日置あゆみ（放課後等デイ）

2020年3月に開所したばかりです。
駐車場を全面的に畑にしました。→凄すぎで
す．．．。



大牟田事業所（清掃、就労継続支援B型）

衣装ボックスプランター。→斬新！
ほうれんそう収穫しました。
畑も借りましたよ。本格始動！



始良（物流、放課後等デイ）

小農・森林ワーカーズののぼりをしっかり立ててます！
しっかり風になびいています。
畑4畝半。田んぼを2反8畝から3反6畝に増やします！



博多（建物管理）

今年はシイタケを育てます。所長、これ経費でおちます？



大分出張所（建物管理）

勝手にブロックで畑つくって、継続中。



長崎出張所（建物管理、生活支援）

勝手に？病院の周り中を菜の花を咲かせています。

レモンの木も栽培中。畑の畝づくり中です。



夢根っこ（放課後デイ、みんなのおうち）

子どもたちと味噌づくり。市民に呼びかけ田んぼづくりはじめます。



沖縄・名護（サポステ、就労支援、学童）

2期作のお米作りをしています。多肉植物を育てる予定。



九州沖縄事業本部

小農はじめました。

